月刊 剣道日本

the KENDO-NIPPON monthly 2019 12 No.515

CONTENTS

復刊 12 号

表紙撮影／川村典幸
表紙デザイン／トモ・ヒコ
レイアウト／須賀稔、沖田匡宏、トモ・ヒコ

本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。

和田晋範士九段――P138

138 剣道日本アーカイブ
表紙の剣士＝和田晋範士九段
（私のプライベートタイム／ 1981年9月号）

142 **柳家小さん対談　ゲスト＝岡田守弘範士八段**
（いや、ご無礼／ 1976年12月号）

連載

009 満つる心技体　第3回　**髙鍋進**（神奈川）
012 名手が選んだ剣道具　第3回　**鍋山隆弘**（茨城）
072 秘伝の旅 第12回　**金子宗利 宗辰舘々長　武専の剣「入ったら打て」**
――語る人・**髙山陽好**　文・早瀬利之
076 **実践！　剣道プロジェクト**第9回
――剣道プロジェクト×アクティブキッズフェスタ広島
080 **山田博徳のワンポイントクリニック**第12回――「攻め」の技術を磨く
151 **マンガ　Kodomo道場** 第12回　切り返し――作画・いとうちづこ
154 **剣道女子** 第12回　山村貴恵（埼玉県公立中学校教員）
156 **刀剣女子への一本道** 第12回　近藤光先生の刀剣講座に参加――文・飯塚さき

【技術連載】

099 **強豪選手の必勝技「ツワモノ」に学べ**
第2回――**土谷有輝**（大阪）

コラム

003 **巻頭言** 第12回　美技と自然体
006 **茎**（なかご）**の穴から世間を見れば** 第12回　人のいる風景――大橋弘
007 **仰ぎみる剣の道** 第12回　剣道“武田流” ④――椎名市衛
008 **剣に学んだ人生訓** 第12回　三上の教え――小澤博
158 **“K” word ワンポイント剣道英会話** 第9回 セミナーで使える英語―濱崎真美
159 **敗者はいらない** 第141回　ここ一番の勝負に勝つために――馬場欽司
161 **突撃！となりの剣道人** 愛読者の『剣道日本』ライフ第10回―峰守慶、鷹箸克行（神奈川）

大会・イベント

106 第67回全日本選手権大会プレビュー
108 愛媛県と韓国の剣道交流会
110 全日本実業団大会
116 全日本東西対抗大会
123 国体剣道競技

132 剣日フォーラム
香川・土庄中を迎えての錬成会（東京）、日本製鉄グループ大会（東京）、
日体大剣友会全国高校大会（東京）ほか

148 新・剣客万来
162 次号予告・残心（編集後記）
160 **定期購読キャンペーンのご案内**

147 **DVDコンテンツ**
第49回全国中学校大会、刀に親しむ（女性3名が試し切りに挑む）

015 **特集**
会得したい「自然体」

016 インタビュー
山口香
（ソウルオリンピック柔道銅メダリスト）
自然体は円くて
最強の身構え・気構え

023 **自然体を再構築する技術**
――小川恭二（日本トレーニング指導者協会理事）
034 **近本巧（愛知県警）**
――力が抜ければ自然体
042 **佐藤充伸（小牛田農林高校）**
――個性で勝負！
046 **剣道のある風景⑧――横光利一**　文＝時見宗和
048 **求めるは自然体――川上央**
052 **構えの基本を見つめ直す――剣日アーカイブ**
055 **自然体とはどんな姿勢か、自然体をどう活かすか**
――坂東隆男（大阪大学教授）

【シリーズ企画②】
昇段審査徹底研究

060 **気剣体一致を実践する基本動作**
――解説＝**佐藤誠**
061 **手の内、素振り、すりかぶり**
065 **右足の役目、間合と合気**

083 【短期集中連載①】
剣道に「知力」を活かせ

084 **大会レポート　東日本医科学生大会**
087 **東日本医科学生大会出場校総覧**
091 **自治医科大学ルポ**
095 **森田綺理選手（北海道学生大会優勝者）**
096 **鳴本敬一郎（平成13年全日本学生大会優勝者）**

【お詫びと訂正】
先月号の目次欄で、小川恭二氏（中高生のためのトレーニング講座）と榎木泰介氏（掛かり稽古に内包するトレーニングの価値を検証）のお名前の記載に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。（編集部）

優勝 NTT（本社）

榎本雄斗（27歳）、山田将也（22歳）、渡部晃（28歳）、齊藤将吾（29歳）、兵藤裕則（27歳）、斎藤康平（29歳）。 監督＝谷裕二（51歳）

第62回 全日本実業団剣道大会

令和元年9月21日（日）
墨田区総合体育館
主催＝全日本実業団剣道連盟

劇的な代表戦を制したのは NTT（本社）

取材・文＝岡井博史
撮影＝窪田正仁

ついに、と呼ぶべきなのだろうか。実業団剣道界では強豪として名高いNTT（本社）が、377のチームがエントリーした大会の頂点に立った。

優勝が決まった瞬間、戦いに臨んだ選手たちは当然のこと、チームメイト、OBら関係者全員がワッと大きな歓声を挙げた。性別、年齢を問わずに喜び涙するその一体感こそが、同社が築き上げた剣道部の伝統といえた。

実業団大会ではつねに優勝候補としてその名が挙がるNTTだが、近年は惜しいところでの敗退が続いていた。

毎年、強力な新戦力の加入があり、日本一を狙う意識も高い。であるからこそ、前回優勝（2013年）以降の3位2回という結果は一見すれば優秀な戦績ながらも見方を変えれば〝超えられぬひとつの壁〟とも映る。決勝戦一歩手前のその壁をいかにして乗り越える

**今大会には4人の中央大学出身者に
明治大学卒の新人・山田選手を加えた布陣で臨んだNTT（本社）。
近年は惜しいところで優勝を逃し続けていただけに、
第56回大会（2013年）以来となる栄冠奪取に喜びの感情を爆発させた。**

歓喜！

かがNTTの抱える大きな課題のひとつだっただけに、今回の優勝にはどうしても「ついに」の印象を抱かずにはいられなかったのだ。

NTT（本社）のメンバーのうち、過去にこの大会での優勝（2013年）を経験しているのは最年長の齊藤1人。その齊藤をはじめとして、渡部、兵藤、榎本の4人が強豪・中央大学の出身者であり、全員年齢も近いこともあって、選手間のコミュニケーションについては他のチームよりも大きなアドバンテージがあったと想像できる。

その4人に加わる新戦力として抜擢されたのが育英（兵庫）→明治大学を経

▲優勝の立役者となったのは大将の兵藤選手。大将戦では1度敗れるも代表戦では快勝！　最優秀選手賞に輝いた

て入社した山田。今回はこの山田を次鋒に起用し、先鋒には榎本、中堅には渡部、副将に齊藤、大将に兵藤というオーダーは今年6月の関東大会から試された布陣である。

NTTの谷裕二監督は今期のチームの特色を次のように語っている。

「勝負を最後まであきらめないチームです。齊藤キャプテンを中心に、一本に対する執念をもった稽古に取り組んできただけあって、その成果が出たと思います。昨年までは大将にはキャプテンの齊藤であったり、竹越（充）であったりを起用しましたが、今年からは兵藤に任せました。彼のいい部分は動じないところ。自分の剣道を変えずに戦えるところが特長です」

谷監督の評価にもあるように、大将に抜擢された兵藤は今大会では大活躍。もともと、小柄な体格を不利とも感じ

決勝　代表

兵藤（NTT・本社）コ―
足達（パナソニック・LS本社）

▲大将戦では足達が初太刀の逆ドウを決めて勝利している。代表戦でもその勢いを駆って攻める足達。メン、そしてコテと惜しい技を繰り出したが、打突直後の足達のわずかなスキを兵藤がコテにとらえた（写真）

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点	代
NTT（本社）	榎本	山田	渡部	齊藤	兵藤	1	兵藤
			㊙			1	コ
	×	×		×	㊐	1	
パナソニック（LS本社）	棚本	有田	永井	高	足達	1	足達

昨年は2位、今大会の結果を含めれば4年連続で決勝戦に進出している大阪のパナソニック勢。優勝こそ逃しはしたが層の厚さは実業団剣道界随一だ

2位

パナソニック（LS本社）

棚本廉（22歳）、**有田圭助**（30歳）、**永井雪新**（24歳）、**髙優司**（29歳）、**足達翔太**（29歳）、**久林武蔵**（29歳）。
監督＝**中野寛之**（39歳）

◀決勝戦終了後、髙主将（写真左）と代表戦で戦った足達選手はご覧の表情。大将戦での見事な勝利はもちろんのこと、代表戦でも惜しい技が見られただけに足達選手にとっては悔しい敗北となった

させないパワーとスピードを兼ね備えた好選手ではあったが、今大会ではそこに勝負強さも加わった印象だ。緒戦となる2回戦、東芝テック（東京支社）との対戦ではいきなりの代表戦となるが、ここをクリアするとその後もチームの大将としての役割をまっとうした。

もっともピンチを迎えたのはパナソニック（LS本社）との決勝戦だが、自身が敗れた大将戦からの代表戦での勝利はまさに〝不動心〟の賜物だ。

優勝を逃したパナソニックだが、第59回大会（2016年）で門真チーム（Bチーム）が優勝して以降、第60回大会で本社チームが優勝、門真チームが3位、昨年の第61回大会では本社チームが2位と、A、Bチーム揃って大会の上位を席巻し続けている。

昨年は決勝で敗れてしまっていることもあり（優勝は富士ゼロックス・本社）、今大会への気合は充分、決勝戦も代表戦に持ち込むまでの流れは完璧だっただけに、試合後の選手たちの表情にはさすがに悔しさがにじみ出た。

大会3位には、前回優勝の富士ゼロックス（本社）と富士ゼロックス東京（本社）が入賞。連覇を狙った富士ゼロックスは準決勝のNTT戦では試合を有利に進めながらも悔しい逆転負け。とはいえ、ここで称えるべきはやはり勝ったNTTか。富士ゼロックスを相手に、先鋒、次鋒の2連敗を中堅戦から挽回したのは勝利への執念と言えるだろう。

連覇を狙った富士ゼロックスだがNTTに逆転負け。高いポテンシャルを誇る梅ケ谷選手を擁するだけに、今後もつねに優勝をうかがう存在といえる

準決勝 大将

兵藤（NTT・本社）㊁―
北川（富士ゼロックス・本社）

▲中堅渡部、副将齊藤の奮闘により同点同本数に追いついたNTT。大将戦は桐蔭学園高校（神奈川）出身者の顔合わせとなった。同期生の2人の対戦は、鋭いコテを決めた兵藤の勝利（写真）。富士ゼロックスの連覇はならなかった

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点
NTT（本社）	榎本	山田	渡部	齊藤	兵藤	3
			㊁メ	㊁	㊁	4
富士ゼロックス（本社）	㊀	㊁	メ			3
	米満	梅ケ谷	岩川	上原	北川	2

富士ゼロックス（本社）

米満広将（25歳）、梅ケ谷翔（24歳）、岩川力（30歳）、上原祐二（38歳）、北川清太（27歳）、東郷知大（27歳）。
監督＝野口淳司（44歳）

3位

富士ゼロックス（株）の販売会社であり、剣道部同士ともに稽古に励むなどの交流あり。この全日本実業団大会では第59回大会（2016年）で2位入賞を果たしており、今大会は同門決勝の実現まであと一歩だった

準決勝 大将

足達（パナソニック・LS本社）㊁コ―ド
新海（富士ゼロックス東京・本社）

▲同点同本数で大将戦を迎えた。上段に構える新海、足達ともに明治大学の出身だ。後輩である足達がコテで先制すれば（写真）、新海も機会をとらえた逆ドウで一本返す。最後は足達のコテで決着となったが、緊張感漂う好試合だった

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点
パナソニック（LS本社）	棚本	有田	永井	高	足達	2
		㊁コ	㊀		㊁コ	5
富士ゼロックス東京（本社）	㊁コ		コ		ド	4
	坪井	川井	野村	丸家	新海	1

富士ゼロックス東京（本社）

坪井俊輔（24歳）、川井大誠（23歳）、野村慶徳（38歳）、丸家光太（30歳）、新海幹之（34歳）。
監督＝加納功一（48歳）

3位

準々決勝　代表

北川（富士ゼロックス・本社）
コ―　村岡（九電工・本社）

◀九州地区の強豪・九電工が富士ゼロックスに肉薄。大将戦まで一本も発生せぬまま、代表戦へ。代表戦は３分にさしかかろうかというタイミングで北川のコテが決まった（写真）

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点	代
富士ゼロックス（本社）	米満	梅ケ谷	岩川	上原	北川	0	北川
						0	コ
九電工（本社）	池	岡本	山本	村岡	芳野	0	村岡

準々決勝　大将

新海（富士ゼロックス東京・本社）
㋟コ―　細貝（東京海上日動・本店）

▲まったくの五分で迎えた大将戦は上段の新海が初太刀で放った逆ドウがいきなりの一本となる（写真）。優位に立った新海はその後、片手ゴテも追加した

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス東京（本社）	坪井	川井	野村	丸家	新海	1
	㋟コ	コ㋟			㋟コ	4
						2
東京海上日動（本社）	勇	古田	安川	田中	細貝	0

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス東京（本社）	坪井	川井	野村	丸家	新海	2
			㋟	㋟メ	㋟	4
	㋟メ				コ	2
トールエクスプレスジャパン（本社）	宇野	染村	對馬	安藤	吉田	1

６回戦　中堅

野村（富士ゼロックス東京・本社）㋟―
對馬（トールエクスプレスジャパン・本社）

▲先鋒宇野が速攻の二本勝ちを遂げたトールエクスプレスジャパン。苦しい立ち上がりとなった富士ゼロックス東京だが、中堅のベテラン野村のメン（写真）から流れが変わり、副将で逆転した

６回戦　先鋒

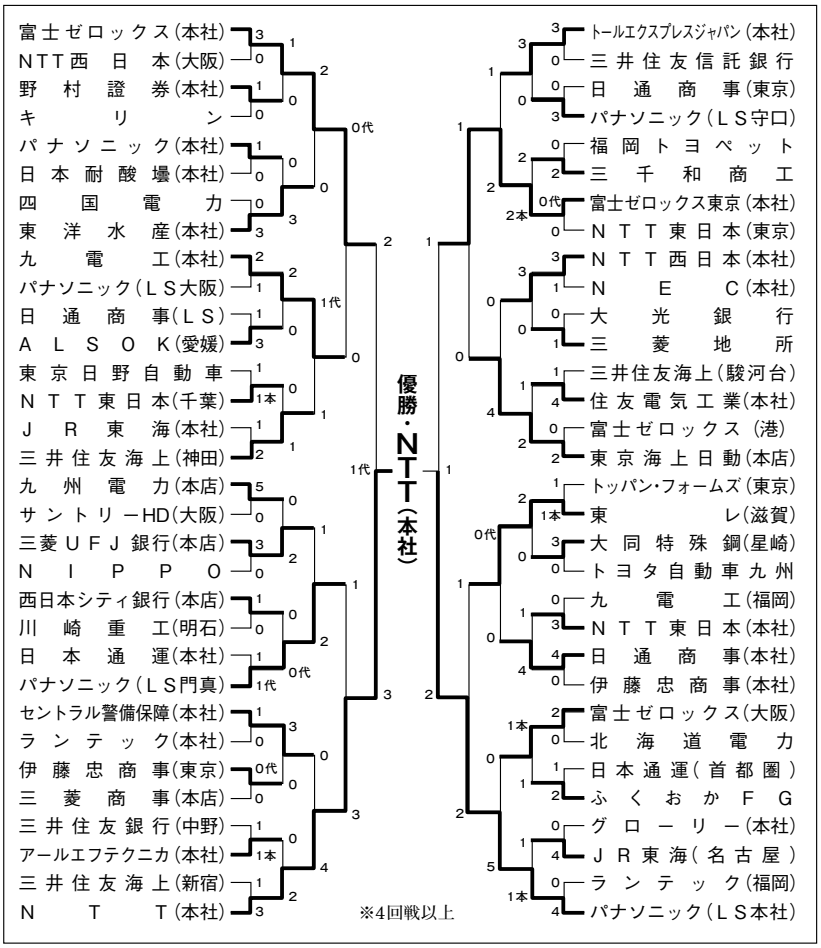
榎本（NTT・本社）㋟―
長尾（セントラル警備保障・本社）

▲試合時間後半、長尾の出てくるところをうまく見切った榎本がメンに合わせて一本先取（写真左が榎本）。先鋒の勝利で勢いづいたＮＴＴは相手に勝ち星を与えず完封

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点
NTT（本社）	榎本	山田	渡部	齊藤	兵藤	4
	㋟	メコ		コ㋟メ	㋟	6
		コ				1
セントラル警備保障（本社）	長尾	星谷	佐々木	仲田	古川	0

チーム＼順	先	次	中	副	大	得点	代
日通商事（本社）	木村	五十嵐	賀川	川上	山内	0	山内
				コ		1	メ
				コ		1	
東レ（滋賀）	茂田	各務	樫原	嘉数	三雲	0	三雲

６回戦　代表

山内（日通商事・本社）メ―　三雲（東レ・滋賀）

▼今年の関東大会を制している日通商事と東レの試合は代表戦にもつれた。東レの三雲は全日本選手権大会出場を決めている強豪だが、長期戦の末に上段・山内の片手メンが決まった（写真は攻防）